

【資料1 新たな文化施設の整備について】

基本計画における想定延床面積

機能		想定面積	主要諸室
機能部	鑑賞・発表機能	3,600㎡	ホール、客席(1,000席程度)、舞台、ホワイエ、トイレ、楽屋、搬入口、倉庫、技術諸室 等
	創造支援機能	500㎡	創作・イベントルーム（リハーサル室（小劇場）、収容200人程度）、創作活動室（練習室、ミーティング室）、控室、倉庫、搬入口 等
	交流促進機能	450㎡	エントランスロビー、交流スペース、情報コーナー、イベント・展示スペース 等
	その他の機能	350㎡	キッズスペース・授乳室、事務室、監視室、守衛室 等
共用部		1,470～ 1,720㎡	廊下、トイレ、エレベーター 等
機械室		1,130～ 1,180㎡	機械室
合計		7,500～ 7,800㎡	



考えられる見直し案

○鑑賞・発表機能

・**舞台（奈落）**：当初は多様な演出に対応可能とするため必要に応じて大迫り・小迫りを備えるよう検討することとしていたが、長崎ブリックホールや他都市類似施設の実績に基づき大迫りが演出に使われる頻度が低く一部限られた演目にのみ使われている実績から、大迫りが無くても多様な演出は可能であるため今回大迫りまでは備えずその分大迫りの地下空間である奈落の面積を削減する。

・**ホワイエ**：当初は観客の滞留空間であるホワイエとエントランスロビーをそれぞれ設けることとしていたが、改めて近年開館したホールで見られる事例にならないホワイエとエントランスロビーを一体利用することで各々の機能を確保しつつ面積を減らすことが可能となったことから、面積を削減する。

・**技術諸室（調光盤室）**：当初は舞台の照明はハロゲンを想定しておりハロゲンでは光を調整するための調光盤を設置する諸室(調光盤室)が必要だが、照明技術の進歩により現在はLEDでも対応可能な状況のため、LEDでは不要となる調光盤室は設置しない。

○創造支援機能

・**リハーサル室(小劇場)**：当初リハーサル室(小劇場)に必要と想定していた面積に対し、直近で他都市の類似施設を改めて確認した結果、より小さい面積でも対応できていることが確認できたため、必要面積まで面積を削減する。

・**練習室**：当初は練習室の設置を想定していたが、現在の市内の会議室の稼働率を鑑み、これまでコンベンション機能を担ってきたブリックホールの会議室を市内の練習室不足を早期解消するため練習室に早期改修することを前提とし、練習室は設置しない。

○交流促進機能

・**エントランスロビー**：当初は観客の滞留空間であるホワイエとエントランスロビーをそれぞれ設けることとしていたが、改めて近年開館したホールで見られる事例にならないホワイエとエントランスロビーを一体利用することで各々の機能を確保しつつ面積を減らすことが可能となったことから、面積を削減する。

○その他の機能

・**事務室（利用者打合せ室）**：当初は利用者打合せ用の個室を設けることとしていたが、カウンター等で対応可能であるため、面積を削減する。

○共用部

○機械室

・共用部及び機械室は、諸室全体の面積に連動して増減するため、見直しに伴う算定の結果、削減となる。また、機械室は上限値で算定していたが、今回類似施設の平均値での算定に見直した結果、削減となる。